

# 地歴公民 (日史・世史・地理・政経・倫理) 北海道大学 総合入試【文系】、学部入試【文】

## <全体分析>

試験時間 90分

### 解答形式

記述・論述併用。

### 分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加)

難易 (易化・やや易化・**変化なし**・やや難化・難化)

例年通り大問は3題であるが、解答個数は昨年の45から41に減少した。これとともに、記述問題の解答個数は26で、昨年の33に比べて大幅に減少した。大半はオーソドックスな問題であるが、一部に難問もみられた。一方、論述問題の総数は15で、昨年の12に比べて増加した。また、解答欄の行数からみれば、昨年の計30行から計34行へと大幅に増加した。例年通り、すべて字数不定の問題で、1行～4行で答えさせる形式である(1行の字数の目安は30～35字)。設問数は大きく減少したが、その代わりに論述問題が増えたことから、分量は変化なしとした。

大部分は教科書をしっかりと読みこんでいれば解答できるが、一部には深い理解を必要とする問題、時系列をふまえて論理的な解答を要求する問題もみられる。以上の諸点をふまえ、難易度は変化なしとした。

### 出題の特徴や昨年との変更点

記述・論述ともに例年と同じく、西洋史と東洋史の両方から、時代的には古代から近現代にかけて、分野的にも政治・経済・文化から広く出されることが出題の特徴といえる。昨年との違いとしては、昨年度にはなかった4行問題が2題出題されたこと、グラフを使った設問が出されたことがあげられる。

### その他トピックス

大問3は新課程や歴史総合で扱うグローバル化というテーマに通ずる内容である。

## <大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
1	記述・論述	トルコ系諸民族の歴史	問1は用語の基本的な説明を求める問題だが、意外に書きにくかっただろう。問2(ア)のウイグル人の変化については、定住化と仏教の受容だが、時代範囲をどこまでとるかによってイスラーム化への言及も可能である。問5(イ)は、「領土が縮小し住民構成が大きく変容した」ことを踏まえた解答を作成する必要がある。	やや難
2	記述・論述	ヨーロッパの独裁者	問3では、アイルランド征服の理由とその後の社会的影響は、教科書では別の箇所で行われていることが多く、難しいと感じたかもしれない。	標準
3	記述・論述	世界史上の人口動態	問3は難問。問4は地丁銀制の表面的な理解だけでは、「課税対象者の把握」という点に答えるのが難しい。問6の華僑が従事した「業種」は、教科書では明記されていないので、解答に困ったかもしれない。問8は、1990年時点での30歳前後という点から、1960年前後の出来事を想起し、大躍進に関する問いだと判断することが必要。	難

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

## <学習対策>

- ・ 論述対策：ふだんから 30 字～120 字程度の論述問題をくりかえし練習しておくこと。例年、文化史の分野から思想や宗教関連の出題がみられるので注意すること。ある歴史的事実の背景、経過、結果、影響、意義など因果関係を説明させる問題がかならず出題されるので、そのようなタイプの問題に慣れておくこと。基本的な用語や概念を説明させる問題もかならず出題されるので、しっかり対策しておくこと。
- ・ 地域対策：イスラーム史、アフリカ史、南北アメリカ史からの出題も多いので、苦手にせず、よく対策しておくこと。中国史は毎年かならず出題されるので、対策を怠らないようにすること。また、清代はこれまで頻繁に出題されているので注意すること。
- ・ その他：専門用語の漢字で覚えていないものがあれば、正確に書けるようになるまで練習すること。第二次世界大戦以後の戦後史についても、重要テーマを中心に基礎的事項を整理して記憶しておくこと。